

## 定例記者会見

日時 令和5年11月21日(火)

午後1時から

場所 市役所3階 大会議室

### 発表項目

#### 令和5年度12月補正予算(案)の概要(資料2)

本年度の12月補正予算案は、小学校給食の期間限定の無償化や「えちぜんし割クーポン」の発行などの物価高騰対策を急いで行うということ、そして、北陸新幹線県内開業後にスタートダッシュできるよう、二次交通の整備や観光地の魅力アップ、UIターンの促進やふるさと納税等を増額する事業費が主なものです。

物価高騰対策は、国会で「デフレ完全脱却のための総合経済対策」について議論されているところです。まだ国から詳細な内容が示されていないのですが、来るであろうということ織り込んで、今回の予算措置をしています。

特に、年内に支援をするための住民税非課税世帯等に対して7万円を追加支給する「住民税非課税世帯等支援給付金事業」、さらに、消費拡大のための「えちぜんし割クーポン発行事業」、この2つは冒頭で議決をお願いして、年内に執行する予定をしています。

全体の規模は、14億3,263万7千円、12月補正予算としては、令和元年度以降、2番目の規模です。

財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金や国の経済対策で創設される物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金など国・県の交付金や財源措置率が高い地方債を活用することで、極力、一般財源を抑えています。

まず、冒頭議決分を説明します。

資料4ページ目になりますが、1世帯当たり7万円の給付とえちぜんし割を冒頭の議決でお願いするものです。

内容ですが、5ページ目になります。4月に専決で3万円を給付しました。これに7万円を上乗せするというもの。住民税非課税世帯がやはり物価高騰の影響を切実に受けているだろうということで、7万円を追加給付します。

対象は、約5,000世帯であり、申請手続き不要のプッシュ型の支援を行いたいと思っています。

12月上旬に通知を発送しまして、12月25日に振り込む予定をしています。

また、住民税非課税世帯等(7万円)と所得税等の定額減税(4万円)の間にある方の支援については、今後の国の動きを見てから対応したいと考えています。

6ページですが、えちぜんし割クーポン発行事業です。これは、従来、コロナで売り上げが落ちた事業者を応援するという趣旨でありましたが、今回は、むしろ、物価高騰で影響を受けている一般市民の方のために発行するというので、勿論、事業者を支援するという意味もありますが、若干、これまでと異なっています。

割引は、2千円以上の買い上げで500円割引であり、これまでと同じです。これも冒頭議決より、12月1日から来年1月31日までの2か月間に消費をしていただく予定をしています。

えちぜんし割は、これまでに、約32万枚が利用され、うち6割弱が越前市民により利用されていますので、物価高騰の影響を受けている多くの市民に支援を届けてまいります。

7ページですが、物価高騰対策としてまとめてあります。市民向けには、先ほどの7万円の給付とえちぜん市割クーポン、これに加えて、小学校の給食費を3か月間、支援という形で無償化する、給食費相当分を応援するという考え方です。もう一つは、水道料金(基本料金)を2か月分無料にするというものです。この2つは相当額の支援ですが、実際は、給食費をいただかない、水道の基本料金をいただかないという形で執行することになります。これにより、事務手続きの時間的ロス、コスト等を省略して確実に支援が届くということで、この2つの支援で対応するというようにしています。

その他、事業者向けですが、これまでも公共交通機関に対する電気料金・燃料費の支援、介護施設等に対する支援、これは食材費を新たに加えようというものです。9ページをご覧くださいと、介護施設等については、6月に電気料金高騰分を応援しましたが、今度は、食材費を12月で応援するものです。中小企業の利子補給、保育園や農業者に対する水利施設の電気料金ということで、幅広く市民及び事業者向けの支援を当初、6月、9月に引き続いて12月で手当てをしているということです。

特に、学校給食であります。小学校給食費の掛かり増し費用については、既に6月補正で手当てしているところですが、今回は、従来、保護者からいただいていた給食費を無償化するという形で物価高騰対策をやるという考え方です。無償化するというよりは、給食相当分を応援するという考え方です。

児童数は約4千人。保護者の負担が、1食当たり278円、1月～3月で48日相当分、5,340万円を今回、措置しています。

水道料金については、対象は、一般家庭3万1千件、事業者3千件の合計約3万4千件で、1月、2月分の基本料金を無料にするという考え方です。

次に、12ページ「2 安全・安心な市民生活を下支え」であります。

デマンド交通実証実験を行っていますが、これをさらに期間を延長するというものであります。延長した分を予算化しています。

当初、新幹線の開業までというふうにしていましたが、新幹線開業後の人の流れが変わる

のではないかとということで、実証実験の期間を令和6年9月末まで延長することとし、年度内については12月補正予算において、令和6年4月以降の分については債務負担行為を設定するというものです。

現時点で、登録者数は180人で、97件の予約を受け運行しました。今のところ、順調にいらっておりますので、実証実験の後、改善点を見出して対応したいと思っています。

同じく、12ページですが、例年行っている補正であります。利用実績に伴い12月補正予算で当初見込みとの差を増額している。

例えば、こども医療費助成については、今年4月から小学校1年生から高校3年生まで窓口無償化を実施しており、当初延べ約4.5万人、2,231万円の影響を想定していたが、インフルエンザ等の感染症の流行により、利用者が延べ約5.4万人になり、2,692万円の補正が必要になった、こういったたぐいのものを補正していき、4億5,761万7千円となったものです。

13ページの県営土地改良事業、土地改良補助金事業ですが、八乙女頭首工の土砂がたまっていますので、これは、昨年南越前町の大雨により、9月末までの間において河川上流部で4,000 m<sup>3</sup>、沈砂池で1,500 m<sup>3</sup>と例年を上回る土砂の堆積があることから、浚渫工事を支援するものであります。

14ページの市営林道整備事業ですが、今年6月、7月の大雨で破損した林道施設を改修するものであります。工事が冬期にかかるため、繰越明許費も併せて設定しています。

次に15ページの「3 観光地の魅力アップを推進」であります。

これは、シャトルバス運行事業です。令和6年3月16日の北陸新幹線開業後に越前たけふ駅から武生駅、大河ドラマ館の間でシャトルバスを運行することとしました。

運賃は、1乗車あたり500円、運行期間は、令和6年3月16日から令和7年3月31日までであり、年度内については12月補正予算で持ち、来年度分については債務負担行為を設定します。

時間的には、毎日7時から22時の間、1時間に1本運行する予定であるが、新幹線が開業してみないと分かりませんので、利用状況を見て運行形態を見直す必要があると思っています。ルート上のホテルにも停車し、ホテルに宿泊される方はこのシャトルバスを利用すれば行けるというふうになっています。

令和6年3月16日から本格運行ですが、それに先立ち、大河ドラマ館の開館にあわせ令和6年2月23日から3月15日までは、武生駅から大河ドラマ館の間で、無料で運行します。

16ページの越前和紙バレー創造事業ですが、これは、越前和紙を中心としたエリアにおいて、県の支援制度を活用し観光素材を活かしたエリアの高付加価値化、さらなるスケールアップを図るものであります。

令和5年度は、まず、計画を策定しまして、令和6年度から3年間で、ハード事業、ソフト事業を実施していくものです。

越前和紙の産地は、非常にポテンシャルがあると思っておりますので、さらにこれからもサステナブルにこういった活動が行われ、トップクリエイターや高付加価値旅行者、目の肥えているお客さんをターゲットとし、越前和紙、越前のファンを広めるということで、この辺の整備を行う予定であります。

次に、17ページの丹南地域定額タクシー事業ですが、鯖江市と越前町が9月補正予算で予算化していたと思います。本市と南越前町は、12月補正で予算化するという事です。

具体的には、2市2町の住民以外の来訪者を対象に、利用料金1,000円で乗降スポット間を移動出来るようにし、タクシー料金から1,000円を控除した額を、県と観光客がタクシーを降りた市町(着地市町)がそれぞれ1/2負担するものです。ただし、越前町、南越前町の越前海岸沿いの民宿等を利用する場合、県と越前町、南越前町がそれぞれ1/2を負担します。

県が作った枠組みを今回、具体的に協議が整いましたので、予算化したものです。

18ページのいまだて芸術館施設管理事業ですが、来年4月に予定している国際木版画展の展示に向け、正面自動ドアの改修や屋上の防水工事を行うものです。

19ページのふるさと納税推進事業ですが、報道の皆さんのご協力をいただいて、いろいろ情報発信をしまして、当初予定よりふるさと納税寄付金が増額したため、返礼品費用を増額するものです。

令和5年度当初予算では、12億円を目標としたが、経費の改正の議論もあって、9月末でどっと増えたこともありまして、2億円アップしました。その増額分の半分を返礼品費用として予算化しようとするものです。

今年度は、従前の3つの寄付サイト(ふるさとチョイス、楽天ふるさと納税、三越伊勢丹ふるさと納税)に加え、2つの寄付サイト(さとふる、ふるなび)も追加したこともあり、ふるさと納税が増えたのではないかと考えております。

ふるさと納税については、先ほどの子ども医療費の無償化等の財源としても使っております。さらなる情報発信に努め、今後も、返礼品を通じた本市のPR等により関係人口の増加を図ってまいります。

最後に20ページですが、今年の異常な猛暑等に対応し、次期作において園芸作物の安定した生産量を確保できるよう、生産組合や販売農家等の高温・少雨への対策を支援するものです。耐暑性品種、かん水資材等の高温・少雨対策に要する経費の1/2を支援します。

今年は、連続20日間最高気温が35度を超え、連続24日間雨が降らなかったということで、本市のブランドであるしらやまスイカについては、出荷量が昨年度に比べ36%、販売高が41%減少したことから、このまま続くと、産地が無くなってしまいうという危機感がある

という要望もいただきまして、来年度以降、園芸作物の安定した生産量を確保できるよう、すいかを含め園芸作物の高温・少雨対策について支援をします。

#### 質疑応答

【質疑】シャトルバスについて、本来だと民間事業者に路線を開設してもらう方法があるかと思うが、シャトルバスを設定するというのは、どういうねらいがあるのですか。

【回答】採算がとれれば、バス会社もやってくれると思うが、今の状況でお客さんの数もよめないし、運転手もないという課題もあるので、まずは、行政の方で準備をして、しっかりお客さんを迎える必要があるという判断をしたものです。

【質疑】採算がある程度、見込めるようになったら、市からバス会社に路線を開発してくれということになるのですか。

【回答】採算がとれるほどのお客さんがいればあり得ると思います。まずは、スタートの段階で、環境として、採算がとれないとバス会社もやらないので、実態を見ながらということで、採算がとれるぐらいのお客さんになれば、当然、そういうふうにしていくことになると思います。

【質疑】広域タクシーは、県と丹南市町で実施するということですが、丹南地域以外でもこういった取り組みはあるのですか。

【回答】県の整備設計が、広域というのが丹南地域だけを念頭において、もともと「RENEW」でやっていた枠組みを今回、県が補正をしたということですので、市町をまたぐのは、丹南エリアだけであると承知しています。

【質疑】越前たけふ駅と在来線の駅とが離れているので、独自の交通対策を講じないと、誘客が難しいと思いますが、取り組みについて全般的にどういったお考えでしょうか。

【回答】従来の JR 駅から離れているからというふうにはあまり思っておりません。むしろ、新幹線の駅からお客さんがあちこち周るということを考えた時に、どういうルートがあるのか、1つには今回、大河ドラマがありますので、大河ドラマ館、そして紫ゆかりの館、あるいは、東の方であれば、ナイフビレッジがあったり、和紙の里があったり、そしてさらに奥に行くと漆器がある。特定の大きな観光地ではなくて、比較的、コンパクトな観光地が分散しているエリアにおいて、こういうタイプの公共交通手段がレンタカーなどとあわせて必要であるというふう考えたところであります。

【質疑】シャトルバスや広域タクシーも補正予算を組んで、債務負担行為も設定し、来年度以降もやっていくということだが、半永久的にやっていくとものすごく負担がかかると思うがどうのお考えでしょうか。

【回答】デマンド交通については、従来、路線バスあるいはコミュニティバスに相当の経費をかけています。それをデマンド型、あるいは、ライフシェアみたいな話になりますが、こ

ういった形に公共交通が変化している過渡期にきていると思う。その過渡期において、選ぶ手段として、シャトルバスなども組み込んでいくということでありまして、当然、デマンド型のバス、デマンド型の交通と観光をセットにしていく、市民の足の確保に使う、そういったものを作っていく必要があると考えています。

【質疑】物価高騰対策について、学校給食で中学生はなぜやらないのですか。

【回答】中学校はスクールランチという形で、自校方式ではない。スクールランチは生徒全員が食べているわけではないので、その問題が1つあります。スクールランチを受け入れる体制の問題もあります。そういったことから、小学生のみを対象としています。

【質疑】越前和紙バレー創造事業について、ハード事業の中で、ブランド価値向上施設整備の支援がありますが、新しい和紙関係の施設を整備していくということでしょうか。

【回答】基本的に何か新しい施設を建てるというよりは、あの辺りには立派な民家が残っています。そういったものを改修、リノベーションすることによって、研修施設を整備して、そこに誘客機能、観光客向けの機能をもたせる。あるいは、モデル的な宿泊施設を造る、あるいは、食事の場所を増やすなど、地域一体で今あるものを活用しながら付加価値を高めていくというようなことを考えています。

(龍田副市長)

ブランド価値向上施設については、やはり、越前和紙自体のブランド力・発信力を上げたいということもありますので、先だって研修施設をどういうふうにしていくかということが1点と、ブランドを高めた中にそれにふさわしい体験や物を買っていただくというようなことを含めています。総合的にここに来て、皆さんが滞在しながら周っていただくということを考えながら、しかも新幹線が開業すると、最初のアクセスポイントとして非常に重要になるだろうということでこの度、申請して内定をいただいた次第です。

【質疑】今年度、基本計画策定とのことであるが、具体的に年度末に発表していただけるのでしょうか。

【回答】策定次第、速やかに発表させていただきます。

【質疑】デマンド交通について、始まって約1か月ですが、利用状況を教えてください。

【回答】現在、2つのルートを走っています。味真野・今立の方の利用が多くなっています。現在の登録者数は180人で、14日の運行で、97件の予約を受け運行しました。延べ人数です。年齢的には、特に60代、70代、80代の方が多く利用しています。

【質疑】学生の方の利用状況はどうですか。

【回答】学生の利用は、まだありません。